広 島 県 感 染 症 発 生 動 向 月 報

［広 島 県 感 染 症 予 防 研 究 調 査 会］
（平成２１年８月解析分）

１　疾患別定点情報

（1）　定点把握（週報）五類感染症

平成２１年７月分(平成２１年６月２９日～８月２日：５週間分)

No	疾　患　名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾　患　名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	111	0.19	0.02	↗	10	百日咳	34	0.09	0.04	↘
2	ＲＳウイルス感染症	36	0.10	0.02	↑	11	ヘルパンギーナ	497	1.39	2.90	↑
3	咽頭結膜熱	114	0.32	0.92	↘	12	流行性耳下腺炎	274	0.77	1.01	↗
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	331	0.92	1.04	↘	13	急性出血性結膜炎	2	0.02	0.04	
5	感染性胃腸炎	1,238	3.46	3.70	↘	14	流行性角結膜炎	114	1.20	1.27	↘
6	水痘	365	1.02	1.00	↘	15	細菌性髄膜炎	6	0.06	0.01	
7	手足口病	105	0.29	3.04	↑	16	無菌性髄膜炎	8	0.08	0.19	
8	伝染性紅斑	56	0.16	0.33	↘	17	マイコプラズマ肺炎	24	0.23	0.22	→
9	突発性発しん	243	0.68	0.84	→	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

（2）　定点把握（月報）五類感染症

平成２１年７月分（７月１日～７月３１日）

No	疾　患　名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾　患　名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	62	2.70	2.13	↘	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	138	6.57	4.87	↗
20	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.65	0.57	↘	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	23	1.10	1.10	↓
21	尖圭コンジローマ	18	0.78	0.52	↘	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	5	0.24	0.31	
22	淋菌感染症	25	1.09	0.88	↗						

※「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）
※ 報告数が少数（10件程度）の場合は発生記号は記載していません。

急増減疾患！！（前月比2倍以上増減）

●急増疾患　ＲＳウイルス感染症（14件→36件）
●急増疾患　手足口病（26件→105件）
●急増疾患　ヘルパンギーナ（84件→497件）
●急減疾患　ペニシリン耐性肺炎球菌感染症（57件→23件）

発生記号（前月と比較）

急増減	↑	↓	1：2以上の増減
増　減	↗	↘	1：1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1：1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症（週報対象21疾患，月報対象7疾患）について，県内178の定点医療機関からの報告を集計し，作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	ＳＴＤ定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13，14	19～22	15～18，23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

2　一類･二類･三類･四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾　患　名　(管轄保健所)
一　類	0	発生なし
二　類	53	結核　〔広島市保健所 (18)，福山市保健所 (5)，呉市保健所 (5)，西部保健所 (9)，東部保健所 (12)，北部保健所 (4)〕
三　類	17	腸管出血性大腸菌感染症 (17)　O157 (10)〔広島市保健所 (6)，福山市保健所 (3)，東部保健所 (1)〕，O121 (3)〔福山市保健所〕，O26 (1)〔福山市保健所〕，O103 (1)〔北部保健所〕，O血清型不明 (2)〔福山市保健所〕
四　類	7	レジオネラ症 (4)〔広島市保健所 (2)，西部保健所 (1)，西部東保健所 (1)〕，日本紅斑熱 (2)〔東部保健所〕，つつが虫病 (1)〔東部保健所〕
五類全数	7	ウイルス性肝炎 (B型) (2)〔広島市保健所〕，ウイルス性肝炎 (C型) (1)〔広島市保健所〕，後天性免疫不全症候群 (3)〔広島市保健所 (1)，呉市保健所 (1)，西部東保健所 (1)〕，急性脳炎 (1)〔福山市保健所〕

3　新型インフルエンザ等感染症届出状況

報告数	疾　患　名　(管轄保健所)
119	新型インフルエンザ (A/H1N1)　(119)〔広島市保健所(77)，呉市保健所(15)，西部保健所(22)，西部東保健所(2)，東部保健所(1)，北部保健所 (2)〕

4　一般情報

(1) 腸管出血性大腸菌感染症について

O157をはじめとする腸管出血性大腸菌感染症が，県内でも6月8件，7月17件と増加しています。例年，夏期に患者数が増加するため注意が必要です。

夏休み期間中は，バーベキュー等をする機会が多くなりますが，生焼けの肉や箸についた菌によっても感染します。抵抗力の弱い子供や高齢者には，生肉を食べさせないようにし，食品は十分加熱してから食べるようにしましょう。

●　病　原　体	腸管出血性大腸菌O157，O26，O111，O128など
●　症　　状	症状のないものから軽い腹痛や下痢だけで治るもの，さらには頻回の水様便，激しい腹痛，血便とともに重篤な合併症を起こし，時には死に至るものまで症状には幅があります。多くの場合，3～8日の潜伏期間の後に，頻回の水様性下痢で発病し，さらに激しい腹痛，血便を伴います。熱が出ても高熱になることは少ないようです。子どもや高齢者の場合は，溶血性尿毒症症候群 (HUS) や脳症などの合併症を発症し，重症化することがあるので，注意が必要です。
●　感 染 経 路	飲食物を介する経口感染がほとんどで，菌に汚染された飲食物を摂取することで感染します。 また，感染力が非常に強いため，患者や保菌者の便からの二次感染もしばしば起こります。
●　予 防 方 法	・　手洗いの励行とともに，食品は衛生的に取扱い，調理時には器具を洗浄消毒してください。 ・　水道水の使用が有効的です。井戸水を使用する場合は，塩素消毒を行ってください。 ・　食品は，75℃以上で1分以上，十分加熱調理してください。 ・　レバー等の食肉を生で食べることはひかえてください。

(2) ヘルパンギーナについて

ヘルパンギーナは，咽頭結膜熱 (プール熱) や手足口病と同じく，毎年初夏から秋にかけて流行する，いわゆる「夏かぜ」の代表的な疾患で，主に10歳までの小さな子供が罹患します。

県内においては，これまで例年より少ない状況でしたが，6月84件，7月497件と急増しており，注意が必要です。

●症　状

ウイルスによる咽頭の炎症で，突然の高熱 (38℃以上) が起こり，咽頭痛を特徴とします。

●治療法

ヘルパンギーナの原因となるのはコクサッキーA群というウイルスなどで，この原因となっているウイルスに対する薬はなく，風邪としての対症療法が中心になります。

●家庭での注意点

喉や口の中が痛いので食事や水分が摂りにくいことがあります。また，高熱が出ているときには脱水状態にならないよう，水分の補給を充分に行いましょう。

口の中が痛いときには，あまりかまずに飲み込めるやわらかいものを与えます。

また，オレンジジュースのような刺激になるものは避け，味の薄い牛乳･麦茶などで水分を補給しましょう。

●予防方法

手洗いの徹底が基本です。また，患者とのタオルの共用は避けましょう。